

COLUMN
サービス
深掘

幼児・子供向け知育アプリ
デジタルコペル

- 1

デジタルコペルの
特徴
- 0～6歳の子供が対象です。
- 2

子供の好奇心と集中力を引き出す幼児教室コペルの独自カリキュラムを採用し、楽しく学びながら子供の潜在能力を引き出します。
- 3

子供の年齢・発育に合わせて、レッスンは3つの年齢カテゴリを用意しています。
- 4

多種多様な教材により、子供の好奇心、探究心を刺激します。
- 5

日本語版に加えて、英語バージョンも提供しています。

静岡県焼津市における
ふるさと納税の
お礼品としても提供中！

当社では、スマートフォン向けのコンテンツサービスや、そのサービスを実現するためのプラットフォーム、またそれに付随するセキュリティや差別化のためのソリューションを提供しています。ここに紹介するコンテンツサービス「デジタルコペル」も、当社ソリューションを活用して開発されたもののひとつであり、全国で幼児教室コペルを展開する株式会社コペル監修のもと、株式会社ファンクスが開発した子供向け知育アプリです。当社は、デジタルコペルのマーケティングおよび配信を担当しています。

コペルは、好奇心旺盛な幼児期から“学ぶことの楽しさ”を教え、子供たちの潜在能力を引き出す幼児教室です。全国50余りの教室を運営しており、デジタルコペルでは、そのコペルの教育方針を取り入れた独自のカリキュラムを親子で一緒にスマートフォンやタブレット端末で学ぶことが出来ます。

デジタルコペルは2014年11月に配信を開始し、現在はGoogle Play、App Store、Amazon

Androidアプリストアで入手することが出来ます。また、静岡県焼津市のふるさと納税のお礼品にも採用されています。今後も世の中のニーズおよび、コンテンツの特徴を踏まえたマーケティング活動を積極展開していく予定です。



〈株主様向けアンケートのお願い〉

株主の皆様のお声を聞かせてください

当社は、株主の皆様のお声を聞かせたいため、アンケートを実施いたします。お手数ですが、アンケートへのご協力をお願いいたします。
（所要時間 5 分程度）

- アンケート実施期間は、本誌がお手元に到着してから約2ヶ月間（2016年1月31日まで）です。
- ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円分）を進呈させていただきます。



※本アンケートは、株式会社 a2media（エー・ツー・メディア）の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
（株式会社 a2media についての詳細<http://www.a2media.co.jp>）
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただき、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL：03-5777-3900（平日 10:00～17:30）MAIL：info@e-kabunushi.com

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 3823

いいかば

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjim.jpへ空メールを送信してください。
（タイトル、本文は無記入）
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



会社概要

社名	株式会社アクロディア（Acrodea, Inc.）
設立年月日	2004年7月12日
資本金	3,174百万円
従業員数	49名（単体）
役員	代表取締役社長 堤 純也 (2015年11月26日現在) 取締役副社長 國吉 芳夫 取締役 桑原 崇 取締役 八田 武彦 社外取締役 加藤 隆哉 監査役（常勤） 本郷 洋 社外監査役 高畑 完正 社外監査役 尾原 和人

株式の概況／大株主

発行可能株式総数	19,000,000株
発行済株式の総数	14,406,193株
株主数	12,825名

大株主（株主名）	持株比率
堤 純也	5.4%
株式会社NTTドコモ	5.0%
KDDI株式会社	2.9%
株式会社バンダイナムコホールディングス	2.0%
日本証券金融株式会社	1.9%

株主メモ

事業年度	9月1日から翌年8月31日まで
定時株主総会	毎年11月下旬
公告の方法	電子公告 (http://www.acrodea.co.jp/) ただし、やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
電話照会先	0120-288-324（フリーダイヤル） 証券会社の口座に株式をお預けの株主様は、お取引の証券会社へお問い合わせください。お問い合わせは、上記株主名簿管理人事務取扱場所までお願いいたします。
特別口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 みずほ証券株式会社 本店及び全国各支店

株式会社アクロディア

〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿一丁目20番22号 恵比寿三富ビル5階
TEL 03-5793-1300

ACRODEA 便り

株主通信 VOL.9

2015年8月期 《2014年9月1日 - 2015年8月31日》



証券コード 3823

《株主の皆様へ》

韓国事業から撤退し、
国内市場に集中！
収益改善に向けて
全社一丸となって
業務に邁進いたします。

Question

当期（2015年8月期）の業績の概要をお聞かせください。

韓国事業からの撤退で
大きな損失を計上。

当期は、これまで進めてきたスマートフォン向け事業の基盤が整い、新生アクロディアとしてのいわば再出発の年でした。事業の軌道をソリューション一本に定め、事業内のカテゴリを「プラットフォーム」「モバイルクラウド」「コンテンツ」の3つに分けて体制を整備し、業績の回復に向けて取り組んでまいりま

した。しかし、残念ながら黒字を達成することは出来ませんでした。

目標未達の最大の要因は、韓国向けの事業が思い通りに進捗しなかったことです。これまで韓国では、ゲームサービスをリリースしたり、韓国の有名人を巻き込んだSNSサイトを立ち上げるなど、ビジネスの拡大に尽力してきました。しかし、SNSサイトは目玉である大物有名人の参加が遅れスケジュールに狂いが生じるなど、先行きの不透明さが色濃い状況となりました。将来的に韓国事業が当社グループ全体の足かせとなる懸念が生じたため、韓国子会社 Acrodea Korea, Inc.および Gimme Corporationを切り離すという苦渋の決断に至ったわけです。これにともない事業整理損を計上したため、想定していた業績を大きく下回る結果となりました。

Question

当期の事業の中で特筆すべき事柄を教えてください。

業績には表れないものの、
事業基盤は着実に強化・拡大。

コンテンツにおいては、サッカー日本代表

関連のソーシャルゲームがけん引しました。2014年7月に男子のワールドカップが終わったことで支持低下を心配していましたが、想定以上に健闘してくれました。また、女子サッカーでもワールドカップを見越して「なでサカ」をリリースしました。5月のリリース以来、約3ヵ月で登録者数15万人に達するなど、思っていた以上の支持をいただきました。

モバイルクラウドについては、mBaaSの普及と拡大を目指し、「GMOアプリケーション」を運営するGMOインターネット株式会社と提携しました。GMOアプリケーションは国内のゲーム・アプリ向けサーバーとしてはトップランナーです。GMOアプリケーション上で、mBaaSを国内ベンダー向けにカスタマイズした「GMO mBaaS powered by backendless」の配信を開始し、すでにこれを利用して開発されたゲームがリリースされています。

もうひとつは、当社が特許の独占実施権を持っている「インターホン向けIoTシステム」の進展です。マンションISP業者への販促を行う一方、アイホン株式会社とパナソニック株式会社という、国内のインターホン市場の大多数を占める2社との連携が実現しました。

Question

来期以降の重点施策についてお聞かせください。

mBaaS、IoTの普及を進め、
ストックビジネスを拡大。

現在提供しているサービスそれぞれについて、より大きな数字に押し上げていくというのが当面の考え方です。ただし、コンテンツに関しては、サッカー日本代表のライセンスゲーム以外にもいくつが軸となるものを模索しているところです。強力な版權等を持ち、しかもコアなファンがいる分野をターゲットにしたいと考えています。

インターホン向けIoTシステムについては、

FEATURE

アクロディアの
新たなソリューション

サービス深掘：

幼児・子供向け知育アプリ

「デジタルコペル」

株主の皆様へ／連結財務ハイライト

アクロディア押しソーシャルゲーム

TOPICS

会社概要／株式の概況／大株主／株主メモ

同じようなシステムをフィーチャーフォン時代にも取り組んでいましたが、今考えると、当時はまだ時機尚早でした。スマートフォンの時代になり、回線速度も格段に高速化した今、市場の拡大が現実味を帯びてきていると思います。先ほど申し上げたように、インターホン市場における2大メーカーとのコラボレーションが実現しました。当システムが普及・拡大していけば、当社にとってはストックビジネスの拡大につながります。

また、来期というよりもそれ以降の新事業と見据えているのが、画面転送および動画配信に関連したサービスです。画面転送については、独Dream Chip Technologies社と技術提携を行いました。もうひとつの動画配信のほうは、米DVLABS社との提携により、今後の大きな成長が見込まれるVOD（ビデオ・オン・デマンド）市場を見据えて進めていく予定です。

Question

最後に、株主様へのメッセージをお願いします。

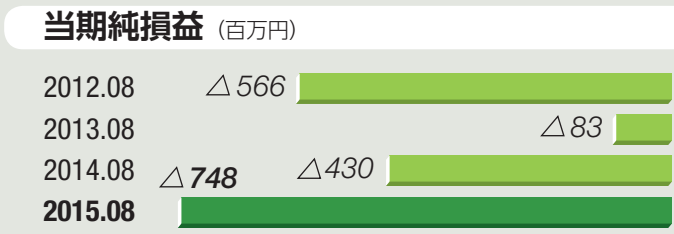
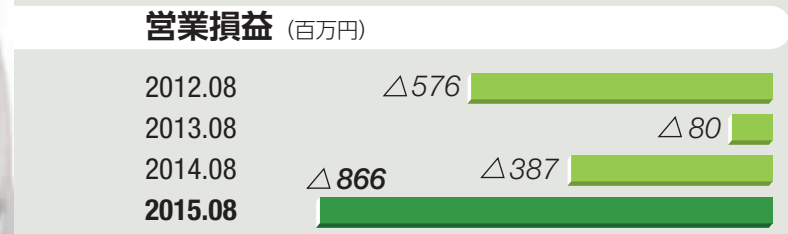
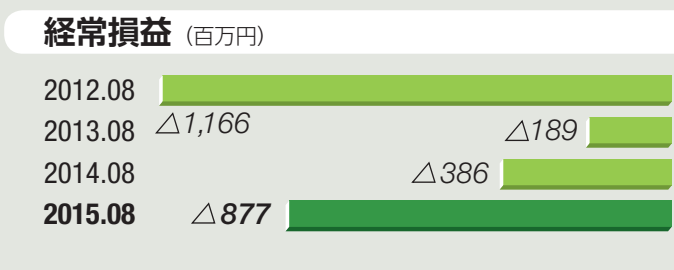
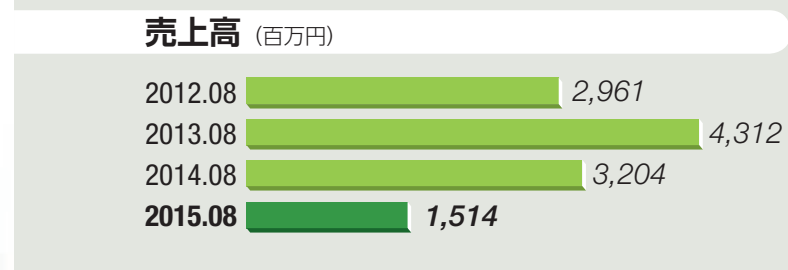
黒字化に向けて心機一転、国内
マーケットにリソースを集中。

フィーチャーフォン向けからスマートフォン向けへと事業のシフトを図る中、数年間、赤字を計上してまいりました。当期はスマートフォン向け事業の基盤がある程度整い、黒字化への道筋が見えたところでしたが、韓国事業のインパクトが大きく、利益を計上することができず、株主の皆様には心よりお詫び申し上げます。

韓国事業からは撤退しましたが、逆に日本のマーケットに対する体制が強化されました。商品・サービスのポートフォリオも現状で十分に競争力の高いラインナップだと自負しております。来期は黒字達成に向けて全社一丸となって業務に邁進していく所存です。

株主の皆様においては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Consolidated Financial Highlight



堤 純也

株式会社アクロディア
代表取締役社長

——「プラットフォーム」「モバイルクラウド」「コンテンツ」それぞれの戦略サービス——

サービスプラットフォーム企業 を目指して。

特集：
アクロディアの新たなソリューション

携帯電話市場の主軸がフィーチャーフォンからスマートフォンへと移行し、当社のビジネスモデルも大きな変革を迫られました。ミドルウェア開発からスタートした当社は今、ソリューション事業をビジネスの核とし、サービスプラットフォーム企業を目指した歩みを開始しました。

スマートハウス

アイホン

× アクロディア

パナソニック

× アクロディア

インターホン向けIoTシステム



住居内はもちろん、外出先でもスマートフォンで来客対応が可能

※IoT: Internet of Thingsの略で、「モノのインターネット」と訳されます。IT機器以外の様々なモノをインターネットに接続することで。

アイホン「VIXUS」、パナソニック「Windea」と連携

インターホン向けIoTシステムは、マンション等の集合住宅に設置されているインターホンをインターネットに接続することで、外出中でもスマートフォンを利用して、在宅時と同様に訪問者の確認や応答、共同玄関の解錠を可能とするシステムです。インターネット上のサーバーを介してインターホンとスマートフォンがクラウドで接続されることでサービスを実現。システム導入時の売上に加えて、サービス利用料による収入があるので、当社にとってはストックビジネスの拡大が期待できます。

当システムは、インターホン市場で圧倒的なシェアを持つアイホン株式会社およびパナソニック株式会社の製品との連携が実現しました。今後、新築物件はもちろん、既存物件への導入を通じて当システムの普及を図っていきます。また、インターホンの寿命は約15年と言われており、現在は初期のテレビドアホンの更新期にあたります。今後は、買い替え需要の増大も期待されます。



現在でも玄関まで行かずに室内の別の場所でインターホンに回答できるシステムはありますが、当社のインターホン向けIoTシステムはスマートフォンを使うことで、屋内外を問わずどこからでも対応できます。今年10月には実証実験的に、当社のシステムが組み込まれた最初のマンションが立ち上がりました。現在のサービス機能は訪問者の確認、応答、解錠ですが、実験を通してユーザーの声をすくい上げ、利便性を追求した様々なサービスを開発していきます。

株式会社アクロディア
ソリューション事業部
セールスグループ シニアマネージャー
伊藤 剛志



バックエンドサービス

GMOインターネット

× アクロディア

GMO mBaaS
powered by
backendless



国内のゲーム・アプリ開発者をターゲット
にGMOインターネットと提携

mBaaS[backendless]は、アプリの開発・運用に必要となるサーバー機能をクラウドで提供するサービスで、当社は2014年1月より、その普及に取り組んできました。そして2015年1月、国内のゲーム・アプリ向けクラウドサービスとしてはNo.1の実績を持つ「GMOアプリクラウド」を運営するGMOインターネット株式会社と業務提携。5月より、国内の開発者向けにカスタマイズした「GMO mBaaS powered by backendless」の正式版を、GMOアプリクラウドのオプションサービスとしてリリースしました。

サッカー育成シミュレーションゲーム

iOS

&

Android

なでサカ～
なでしこジャパンで
サッカー世界一！



"なでしこジャパン"
オフィシャルライセンスによる
初のソーシャルゲームアプリを配信

『なでサカ～なでしこジャパンでサッカー世界一！』は、男子サッカーの「サッカー日本代表」シリーズに続き女子サッカーのライセンスを取得し、5月からGoogle Play、6月からApp Storeで配信を開始しています。サッカーファン、なでしこジャパンファンをはじめとした多くのユーザー様にお楽しみいただいています。

また、女子サッカー選手として活躍する川澄奈穂美選手に、本ゲーム「なでサカ」応援隊長として就任いただきました。イメージキャラクターとしてアプリアイコンやゲーム内トップ画面、各種宣伝広告にもご登場いただき、また、事前登録キャンペーンとして川澄選手限定スペシャルカードの配布も実施しました。

01

対戦パズル RPG『対戦パズル バトルブレイブ』内で、人気アニメ「FAIRY TAIL(フェアリーテイル)」とのコラボイベントを開催



株式会社エイトロソフトとの協業タイトル、対戦パズルRPG『対戦パズル バトルブレイブ』をGoogle PlayとApp Storeで配信しています。

2015年9月には、人気アニメ「FAIRY TAIL(フェアリーテイル)」とのコラボイベントを開催し、大好評いただきました。

「FAIRY TAIL」は、『週刊少年マガジン』（講談社）で2006年から連載中の真島ヒロによる人気漫画作品です。より多くの皆さまに楽しんでもいただけるよう、今後もこのような取り組みを行ってまいります。



02

静岡県焼津市のふるさと納税お礼品『デジタルコベル』がラインナップを拡充



親子で楽しんでいただける、幼児・子供向け知育アプリ「デジタルコベル」は2014年11月から世界に向けて配信を開始し、現在はGoogle Play、App Store、Amazon Androidアプリストアで配信。さらに、2015年6月から静岡県焼津市のふるさと納税のお礼品として採用され、好調に推移しています。

「ふるさと納税」のお礼品としてデジタルコンテンツが採用されるのは、今回が全国で初めてとなります。アクロディアは今後も知育アプリ「デジタルコベル」提供を通じて、幼児教育向上の一助となるよう取り組んでまいりたいと考えています。



03

米国DVLABS社が保有する動画圧縮関連技術の販売業務提携契約を締結

2015年9月、世界最大手のインターネット映像配信ネットワークの日本参入があり、日本でのビデオ・オン・デマンド(VOD)市場の本格的な成長が見込まれています。

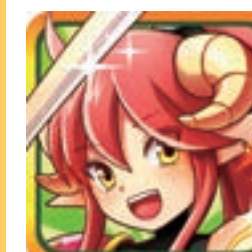
アクロディアは2015年8月、米国DVLABS社と同社の保有する動画圧縮関連技術に関して、国内および韓国市場における販売業務提携契約を締結しました。

DVLABS社の動画圧縮関連技術を使用すると、動画のクオリティを落とすことなくサイズを大幅に縮小し、より狭い帯域での高精細動画の配信が可能となりますので、配信業者側においては配信コストを大幅に軽減することが出来ます。アクロディアは、豊富な動画コンテンツを保有するVOD動画配信業者やモバイルネットワークISP業者に本技術を提供していく予定です。



なでサカ～
なでしこジャパンで
サッカー世界一！

●「なでしこジャパン」の一員となって、世界一を目指せ。

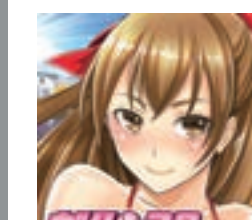


対戦パズル
バトルブレイブ

●サーバーマッチングによる待ち時間なしのリアルタイム対戦が特徴の本格パズルRPG。



アクロディア一押しソーシャルゲーム
スマートフォンや携帯電話で、いますぐダウンロードして楽しもう！



野球しようよ！
ガールズスタジアム

●美少女だらけの野球リーグがついにシーズン開幕！



サッカー日本代表
2018ヒーローズ

●監督となってキミだけの最強サッカー日本代表チームを指揮しよう！



TOPICS